

式辞

えんぶりも終わり、春の息吹も感じられる今日の佳き日、多くのご来賓の方々並びに保護者の皆様・また柳谷利通理事長を始め学校法人役員のご臨席のもと、平成二十八年度第四十二回卒業式を挙げていきますことに、厚く御礼申し上げます。

二百五十三名の卒業生の皆さん、卒業まことにおめでとうございます。式に臨みこれまでの学校生活、学習のこと、部活動のこと、行事や生徒会活動など多くの思い出が脳裏を駆け巡っていることと思います。

皆さんは「学力や体力などの『見える力』と体験や経験をとおして培われる創造力や問題解決力、ともに共感し働く協働力などの『見えない力』をバランス良く育て、将来たくましく生き抜く力を高校時代から育てる」との教育目標のもと、数多くの教育プログラムを通して確実に力を付けてくれました。「見える力」では、先の国公立AO推薦入試では、20名の合格者をだしたのを始め、数々の資格試験では、初の簿記1級の合格者を出し、学年の多くが英検準2以上を取るなど確実に「学ぶ力」を身に付けてきました。また、栗山あさひさんが来年度開校予定の八戸高等支援学校の校章のデザインで選ばれるなど、皆さんの様々な活動が数多くの地域貢献に結び付くようになりました。「見えない力」では、育成プログラムである「ボランティア」「海外研修」「学外学習」に積極的に参加し、そこで発揮したリーダーシップや表現力などで、様々な方面から二高生の高い評価が頻りに聞かれるようになりました。部活動においては小比類巻元希君がラグビーで東日本選抜選手No8に選ばれ、彼の活躍で西日本選抜チームに勝利するという二高部活の歴史に残る快挙を始めとして、野球部の17年ぶりのベスト16等、ほとんどの部活で今までにない成績を収めてくれました。これらの成果は本来の文武両道を目指して発足したアクティブカレッジクラスACの1期生として、生徒会や部活で中心となって頑張ったACの皆さんの活躍も大きかったと思います。先の国公立AO推薦合格者の半数がこのクラスからの合格者であり、また私立大においても10数年ぶりの獣医学科合格者を出すなど確実に文武両道を成し遂げてくれました。先の土日でSC生徒を中心に40数名の生徒が国公立大学前期試験に挑戦しました。受験した皆さんは後期試験までを見据えて最後まで頑張り抜いてください。頑張り抜くことができる人にだけ大きな成果が与えられるのです。

さてこの機会を借りて君たちのこれからの人生についてお話します。今の大人のはほとんどの人は、学校を出、20歳前後で就職、60歳半ばで引退するという3ステージの人生です。殆どの人は同じ会社で同じ職種で人生を終えています。さて18歳の君たちは、人口学者の研究によれば、高い確率で100歳くらいまで生きることになります。伴い主に経済的な理由から80歳くらいまで働くことになり、60年近くの仕事期間を経験することになります。その場合一つの会社で生涯を終えたり、ひとつのスキルで働き続けるということはほとんど不可能だと言われてます。なぜなら60年間継続的に発展成長する会社は希だからです。つまり長い仕事期間の間に、何回か転職や職種替えを

経験し、その度に新しいスキルの獲得や考え方の変更などが求められます。そして新しいステージに参加するには学び直しや様々な新たな経験を通しての人生の幅を広げる作業が必要となります。3ステージではなくマルチステージの人生が待っているのです。

そのためにはどのような力が必要なのでしょう。まずは「学び抜く力」です。長い人生をとおして、お金にあまり困らず生きがいを持って暮らすためには、困難な学習目標を立て、強い覚悟と意志を持ち、目光の欲求を我慢し（セルフ・コントロール）、目標に向けてまっしぐらに忍耐強く努力し続け、課題に習熟し、簡単には取得できないスキルを得るという「やり抜く力」、いわば「習熟スキル」が必要です。本校で言う「見える力」の育成の最終形は「(新しいことを)勉強し抜く力」の育成と言っても良いかも知れません。

次に「見えない力」人間力として、これからも価値を失わないスキルは、新しいアイデアと創造性を育むためのスキル「起業家スキル」、人間ならではの共感能力や思いやり・優しさなどを土台に、どうすれば人とよい関係を築けるかなどの直観力を養う「対人関係強化スキル」、チームのモチベーション向上などに必要な「協働スキル」他には意思決定能力、どの分野でも必要とされる思考の柔軟性や敏捷性などと言われています。これらのスキルを養うためにはどのようなことが必要か、それは一言でいえば「経験学習」です。知恵や洞察、創造性、直観の土台となるものは、経験や体験、観察の繰り返しを通して初めて獲得できるものだからです。本校で「見えない力」(経験や体験を通して培う人間力)の育成に力を入れているのはこの理由からなのです。インターネットなどで大概の知識は誰でも簡単に獲得できるようになった現在、その知識でもってどのような経験をしたかで差がつく時代になっています。

以上の事からマルチステージを生き抜く君たちにとって大切な力は、直近の就職や後の転職や職種替えの際、新たなステージに向けて自らを変えてゆく力です。まずは、様々な経験を重ね、何が自分にとってうまくいくのか、何を楽しく感じ何に価値を見出すのか、何が自分と共鳴するのかなどの自分探しを通して自分を知り、自分らしさや自己意識・アイデンティティを構築することが大事です。その上で色々な人と交流して仲間づくりをし、未知の事柄に開かれた姿勢を持ち、学ぶべきものを「習熟スキル」を持って本気で学び、自らを変身させ新しいステージで活躍するための力、すなわち「変身力」が最も大事です。「変身力」は「見える力」と「見えない力」をフルに発揮し人生を逞しく生きる総合力とも言えます。皆さんは本校においてこれからの人生で必要な「変身力」の一部を身に付けたはずで、今後さらに磨きをかけこの「変身力」をしっかりと自分のものにする努力を怠らず人生を生きてほしいと思います。そしていまの君たちには、お金はなるべく自分に投資し様々なスキルを得ることに使うことを勧めます。若い時の自分への投資は一番見返りが大きいからです。また自分探しのため、自分の境界を押し広げるため、固定概念からフリーになるため、他者や異文化に開かれた姿勢を得るためなどに、エクスペローラー(冒険者)として1年間世界中を旅してみるとかの時間を是非取ってほしいと思います。自分もこの3月を以て退職となりますが、君たちと同じ様に新たなステージを想定し、学

び直ちに挑戦し、余暇をなるべくレクリエーション（娯楽）でなく、リ・クリエーション（自己変革）とエクササイズ（運動・健康）に費やそうと思っています。そして遅ればせながらエクスプローラーとしての時間も取りたいとも思っています。

最後にこの3年間言い続けてきた『本気になる人は変わる。変わらないのは本気じゃないからだ』との言葉を自己チェックの指針とし、節目・節目で変身を遂げ、逞しく生き抜いてほしいと心から願っています。人生のすべての基本は健康です。健康に十分気を遣い、自分にとってなにが幸せかを見極め、「変身力」を持って充実した人生を送ってほしいと切に願い式辞いたします。

「生き残るのは、最も強い種でも最も知的な種でもない。最も変化に適応できる種が生き残るのだ。」

チャールズ・ダーウィン

卒業おめでとう。

平成二十九年三月二日

八戸工業大学第二高等学校

校長 阿保民博